

NS RSNが昨年度の相談状況をまとめる

ばちんこ依存症問題の相談機関、特定非営利法人リカバリーサポート・ネットワーク・ネットワーク(RSN/西村直之代表)が昨年度の相談概要をまとめた「2010年度 ばちんこ依存問題 電話相談報告書」を発行した。

報告書によると、昨年度に受け付けた電話相談件数は1185件、開設後の5年間の総計は5000件を超えた。相談相談の存在を知るきっかけは60%がホール内のポスター。特に相談者が依存症問題を抱える本人であるケースでは76%にのぼる。ポスター経由の相談が多い都道府県は、相談件数の総数も多い傾向が強く、依存症問題を抱える本人への啓蒙としてはホール内へのポスター掲示が最も高い効果を発揮することが改めて浮き彫りになった。

その一方で、インターネット計經由の相談が20%にまで高まり、家族・友人からは40%にのぼることを受け、ネット情報提供システムの構築を今後の課題としている。RSNでは本人の相談電話に対して問題のあるギャンブラーかどうかを判定する「SOGS簡易版」による判定を今年度から実施しているが、本人相談の96%が問題ありとされる2点以上となった。

のめり込んでいる機種はパチンコが57%でパチスロが15%、両方が25%。過去5年の動きを見ると、パチンコが業績好調だった08年に最も高い61%を記録。パチスロは昨年度の12%から15%へ上昇するなど、市場動向がダイレクトに反映される動きとなっている。このほか、一般ユーザーと異なる相談者の動向として低玉貸しの利用頻度



度が低い、42%が毎日遊技するなどの点が挙げられている。
報告書では11年度より新たに相談者の収入及び雇用形態の調査を実施し、データを蓄積し問題を持つユーザー像を形作りたいとしている。

NEWS SCRAMBLE

ニュース スクランブル

NS 回胴遊商 伊豆理事長を4選

回胴式遊技機商業協同組合は5月26日、都内水道橋の東京ドームホテルで通常総代会と組合大会を開催。任期満了に伴う役員改正では、伊豆正則理事長が再選を果たした。伊豆理事長は4選目。筆頭副理事長には大饗裕記氏、副理事長には中田明弘氏、中村泰仁氏、高谷厚之氏、山崎智成氏、近藤久雄氏、専務理事に桂木俊郎氏、常務理事に水谷健一郎氏、徳山高生氏がそれぞれ就任した。



伊豆体制4期目の執行部

を継続していきたい」と述べたほか、理事長再任にあたっては、「身を引き締め、この試練に立ち向かっていきたい」と、今年度の活動目標を説明。「組合員が明日に希望のもてる業界構築」「新たな時代の変化に対応できる組合組織」「地域・社会に貢献し信頼される組合」を指すとして、組合員の協力を要請した。

また、行政講話では警察庁保安課の玉川達也課長補佐が加藤達也課長の挨拶を代読。震災に伴う様々な問題への取り組みを評価し、今後も期待している旨が述べられた。さらに、組合大会では東北支部の村山剛支部長から、各種の支援活動に感謝の言葉が述べられたほか、来賓挨拶でも全日遊連の原田實理事長、日遊協の深谷友尋会長、日電協の里見治理事長らが、回胴遊商の震災に伴う素早い支援活動を高く評価した。



警察庁保安課 玉川達也課長補佐



伊豆正則理事長